

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設市民共創検討事業

ラーニングプログラム「はなす、あるく、きいてみる」

参加者募集

Vol.2

海辺のオモイデと あたらしい地元学

海辺の暮らしのオモイデに、どうふれる？
どうきいてみる？はじめて訪れる沿岸部、
わたしと「これから」のかかわりって何
だろう？ナビゲーターの佐藤正実さんと
ともに海辺のまちをめぐり、オモイデとの
かかわりかたを考えます。

2026 11/22(日) 9:30～15:30ごろ(雨天決行・荒天中止)

対 象 高校生以上

参 加 費 無料 ※帰りの交通費や飲食費(昼食代500円・コーヒー代300円)
などは参加者各自でのお支払いとなります。

定 員 15名(要事前申し込み・応募多数の場合は選考あり)

申し込み 2026年11月12日(木) 締め切り
オンラインフォームより
お申し込みください



<https://logoform.jp/f/0jqG2>

※フォームのご利用が難しい場合は郵送・電話でご相談ください。

※終了後、レポート(800字程度)を提出していただきます。

※当日は記録・広報用の撮影が入ります。個人情報は本プログラムなどのご案内に限り使用します。

※手話通訳などのサポートをご希望の方は、11月6日(金)までにお申し出ください。

主催：仙台市、3.11オモイデアーカイブ

協力：舟要洞場／美江子のみせや、中野ふさとYAMA学校

ラーニングプログラム

「はなす、あるく、きいてみる」って？

仙台市では、「文化芸術の総合拠点」と
「災害文化の創造拠点」となる音楽ホー
ル・中心部震災メモリアル拠点の複合整
備を進めています。このプログラムは、多
様な活動を担う人やそれらが生まれる場
を訪ね、ともに学び、意見を交わすこと
で、わたしたちが暮らすまちの文化活動
や文化施設の土台となる視点を育み、こ
れからの世代とともに本施設事業の「あ
りよう」を考えていく試みです。

海辺のオモイデとあたらしい地元学

11/22(日)

09:30～

仙台駅東口に集合！

10:15～ あるく

「3.11オモイデツアー」

蒲生のまちを歩き、標高3000mmの
日本一低い山の山頂で記念撮影！



11:50～ 昼食

12:40～ きいてみる

「オモイデトーク」

地元の方々と写真を見ながら、
かつての蒲生の暮らしぶりに耳を傾けます



13:45～ はなす

「海辺のオモイデとあたらしい地元学」

地域の生活から立ち上げる地元学の視点から
オモイデとのかかわりかたを参加者同士で探ります。

話し手：佐藤正実 (3.11オモイデアークাইブ 代表)

聞き手：佐藤李青 (立教大学 特任准教授・複合施設管理運営アドバイザー)

15:15～ 終了

市バスで仙台駅へ(所要時間45分程度)

今回のラーニングプログラムは

Vol.3

これって
シミンカツドウ？
つくる、きく

2027 1/23(土)

ナビゲーター
桃生和成さん
(Granny Rideto代表)

定員30名 12月募集開始

海辺のまちには、どんな日常があったのでしょうか？
自分の足で現地を歩き、写真を見ながら、かつての生活を
思い出す人の話に耳を傾けると、教科書
には載っていないリアルな暮らしぶりが
見えてくるはず。まちに残るオモイ
デや魅力を手がかりに、「自分ならどう
伝え、つなげるだろう？」を「ワカモノ」
「ヨソモノ」の視点で探ってみませんか。

ナビゲーターメッセージ



佐藤正実

(3.11オモイデアークাইブ 代表)
震災前と震災後の仙台沿岸
部の写真や映像を手がかり
に、「3.11オモイデツアー」
や「オモイデトーク」など、ま
ちの記憶を語り、きく場づく
りを続けている。著書『佐藤
さんのアーカイブ考ー写真は
“記憶の発火装置”であり
“想い出の接着剤”である』
(東北復興文庫、2026年)

お問合せ 仙台市 青葉山エリア複合施設整備室

住所 〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1 市役所本庁舎4階 電話 022-214-6139 E-mail: bun008830@city.sendai.jp

施設整備に関する情報はこちらから→

